



「だぜ」
といいながら、やはり楽しんでた。

道を、野球で有名な八尾高校の前をまっすぐ東にとり、山本で一旦かぎ型に北へいき再び近鉄高安線の北側を東高野街道へ出て、そのまま服部川に入った。そして、さつきから眼の当りにしていた屏風のような生駒連山に突当つてにわかに登りはじめても、フロントデイレインラーの威力にすつきり、いい気持ちになつてた。第一、悪かつたら後戻りすればいいという気持ちもあるし、後戻りしても樹てたプランどおりでなくても、ともかく二人で走りたいところを走れるだけでも嬉しかつたのである。というわけで、五万分の一の地図をもたないために災いを喫してしまつたので

ある。女の勧告にしたがつて戻るとい手が残されてはいる。だが、それはそれ「男の子」という気持がしきりに働く。そしてなおもコツコツと押して、とうとう頂上までの道をとることになつてしまつた。時間は正午をすぎていた。食物はチーズだけである。大事に二人でチーズの一片だけを食べたときは、さすがに今は山の中だという気がした。それに

を越えて信貴山へいこうと考へたし、八尾市に近くなつて生駒連山が南北に長い姿を見せた時、フロントデイレインラーの威力を信じて疑わなかつた。近づくにしたがつて生駒連山の標高差の大きいことは、はつきりわかつた。事実屏風を立てたようだつた。山は黒く高くそして長かつた。しかし、

「屏風みたいだなあ、あれを登るん

しても高安山への道はひどくこたえたがそれだけに忘れられぬ道である。

フロントデイレインラーも及ばなくなるころ、とりわけ素晴らしい眺めが得られる。最後の人家から百米一寸しか離れていないだろ。電線はいぜんとして続いているが、もはや自転車でも登れる道はこれである。当然のことだが車をおいて一服という手続をとつた。

どうだろ、ついさきほどダブルチェンホイールをローに落したばかりなのにもう河内平野が展げているではないか。日頃私たちの入りなれている関東の山では、こんな展望は稀である。天候にめぐまれているほうだつたが、それだけに南北に長い河内平野は広々としてみえた。

一めん、白赤緑などの色を思うがままにあらつたようである。西の果ては工場の煙もあるだろ、全くくげぶつており、わずかに大阪湾が認められるという具合だつた。六甲も見えろし、京都の方まで伸びる山々がみえる。もつとよく晴れば淡路島もみられるというが、その日にあいにくであつた。

空しく昆虫採集カバンを小脇にかかえ、黙つてこの山の頂に立つているのかわからなかつた。ただいえることは、私たちと感ずるところに違いはあるが、大和

フリーホイール
各種ハブ
三、四、五段変速ギヤ
内張式バンドブレーキ
小ギヤ

No.4350

株式会社 三光舎
東京板橋区志村中台町1
電話板橋(96)0087-1839

また河内平野は黄色ではあつたが、それでもよくみると、人々が何をして暮しているかをみきわめるには困難であつた。畑の面積は広いが、町があり、畑の中に高層の 아파트 があり、工場があり決して農家だけの平野ではない。大阪とてきたような、いろいろなもの田園をいどつているのだ。

それにしても鮮やかなのは河内平野が終るところであつた。私たちの立つ高安山の中腹から見下すと、それがはつきりわかる。深い緑の松にかこまれた幾つもの小さな貯水池は、沈潜した色をたえて空を映している。黄色い平野はここで はつきり区切られている。そこには漠然とした平野のいろどりを寄せつけない 敵しさがただよっているようにもみえた。そして貯水池は山の中腹のかなり上までも作られているのだ。こういう風景

は関東のものではない。

今井氏の姿がまた私にとつては素晴らしい。ツイードのベレーハンチングに紺の長袖のシャツ、そしてツイードのプラスチックのニッカース、模様なしの酒

いる。西側とは比べようもないほどやらかい感じである。平群(ヘグリ)は日本武尊の伝説を秘めるにふさわしい語感だと思つていたが、東の山の下になる。山入りが大きき、

空しく昆虫採集カバンを小脇にかかえ、黙つてこの山の頂に立つているのかわからなかつた。ただいえることは、私たちと感ずるところに違いはあるが、大和

ちら側は屏風ではなく、人々がどこにでも働いていた。それにしても関東と違うのは家である。白い漆喰の壁は有届にみえた。

は関東のものではない。

今井氏の姿がまた私にとつては素晴しかった。ツイードのベレーハンチングに紺の長袖のシャツ、そしてツイードのブルースフオアのニツカース、模様なしの酒落たニツカーホース、ツリーングタイプ

の皮靴といういでたちであるが、何といつても腰に吊した皮のパイプ入れがひょうひょうとしていた。フアインダーの中にとらえて今井氏を追った。或は演出をしながら。余談ではあるが、抵個派サイクリスト今井彰彦氏の風貌を連作としてまとめたという企画を、すでにかなり前から樹ていたので、これからの苦しい登りなどはさらに考えず、ひたすらにシャツターをきつていたのもこの場所であつた。今月号の風貌も実はその時の一枚である。

西側とは比べようもないほどやわらかい感じである。平群（ヘグリ）は日本武尊の伝説を秘めるにふさわしい語感だと思つていたが、東の山の下になる。山ひだが大きくやわらかく、いくつもの部落を仕切つていようだつた。

一人の大学生に会つたのは高安山の一寸手前の神社のある見晴しのいい尾根であつた。彼は黒サージのズボンのすそを靴下でくり、バスケットシューズをはいていた。上は白いカッターシャツで角帽をかぶつていた。背中のリュックサックには大した荷物を入れていないようだが、小脇にかかえた昆虫採集カバンの塗料のはげかかつたのがその学生には一番ピツクリした持物だつた。

「信貴山から法隆寺へ廻りたいんですがどの道をとればいいですか？」
道は笹に覆られていたので、学生の沈黙の世界を破つては悪いと思つたが聞いてみた。ここでも二十万分之一の地図は山容を知ると、下に光つてい川が何川かを知るにしか役立たない。山をまいて、道はどう降りていくか見当がつかなくなつてしまつた。そして笹に覆られた道はどう考えても、いまは利用されることの少ない道としか思えなかつたから。

学生は、そのいでたちが地味であるのにまことにふさわしいような話し方をして、私たちに道を教えた。彼も私たちが何のためここを通るか恐らく不思議に思えたらうが、私にしてもなんの為に彼が

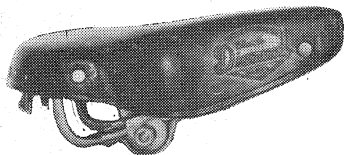
空しく昆虫採集カバンを小脇にかかえ、黙つてこの山の頂に立つていのかかわらなかつた。たたいえることは、私たちと感ずるところに違いはあろうが、大和の国原をみて、その静かな風景に魅せられていたのであろう。彼は地理にくわしく、私たちは珍らしげに、大和をみていたのである。もつと彼と話をしてみたかつたが、彼の思考の世界をこわしたくないので、やめた。

空しく昆虫採集カバンを小脇にかかえ、黙つてこの山の頂に立つていのかかわらなかつた。たたいえることは、私たちと感ずるところに違いはあろうが、大和の国原をみて、その静かな風景に魅せられていたのであろう。彼は地理にくわしく、私たちは珍らしげに、大和をみていたのである。もつと彼と話をしてみたかつたが、彼の思考の世界をこわしたくないので、やめた。

J.C.A. 推薦 サドル

ツアーカント

セミテリー型



● 姉妹品 17型 150型 ほか ●

関東のサドル

株式会社 関東サドル製作工所

東京都墨田区吾嬬町西5ノ74
電話 城東 2339・7801